

金沢龍馬會 会報

金沢龍馬會 事務局
2023年春季号
通巻35号



《金沢龍馬會 新年会》

日時：2月8日（水）18～20時

場所：「わかばやし別館」金沢市幸町

金沢龍馬會新年会が金沢市幸町の「わかばやし別館」で開催されました。

参加者：山田/蛭子/中田/佐藤/大坪/吉田/紐野/中城/松岡/朝日/谷/森川/中村 会友は工藤/藤井 計15名でした。

蛭子会長の挨拶に引き続き、不破県議が挨拶されました。

そして佐藤正樹氏が「龍馬の心を掴んだ女性たち」という題目で講演されました。

有名な平井加尾、千葉佐那、樽崎龍以外にも岩本徳、檜垣須磨、お登勢、お元、大浦慶まで多くの龍馬が愛した女性を紹介されました。

その後、懇親会に移り、紐野県議が乾杯の音頭をとられました。

そして大坪氏は郷土の名士を書いた自身の著書「わが骨太人生譚」を紹介しました。

中田副会長が主催し、あみだくじで皆が持ち寄った品物を景品として順番に受け取りました。

最後に山田副会長が中締めを行いました。

2022年度の行事はこれにて終了となります。4月より新年度が始まります。

《近畿北陸ブロック大会(京都)》

日時：5月20日（土）16:30

場所：京都「さざんか亭六角店」

<https://sazankarokkaku.owst.jp/map>

次第：16:30～ 近畿北陸ブロック大会

18:00～ 親睦会

《金沢龍馬會 総会》

総会（多分「桜はなび」）

6月

北陸三県交流会（富山）

未定

（富山/金沢龍馬會20周年）

《和歌山大会1年前プレイベント》

日時：7月16日（日） 時間未定

場所：未定

次第：講演2名の予定

《第35回龍馬 World in 四万十大会》

地方あつてのニッポン

今一度、四万十川でせんたくいたし候

日時：10月28日（土）

◎本大会 時間：13:00～17:00

会場：高知県四万十市立文化センター

交流会 時間：18:00～20:30

◎エスクカーション

日時：10月29日（日）

《志士たちが活躍した長崎とは ⑬》

岩崎弥太郎

岩崎弥太郎は志士ではないが誰もが知る三菱財閥を作り上げた開祖である。龍馬の夢を引き継いだと云われる。

龍馬生存中、周辺の輩は「新しい世の中ができたから、龍馬はその政治の中心の一人になる」と思っていた。しかし本人は「海援隊をやり、世界を相手に商売をしたい」と発言したとか。暗殺された後、それを実現したのは弥太郎である。

大河ドラマ「龍馬伝」では若い弥太郎が乞食同然な姿で登場した。そうそうたる三菱グループの面々は仰天してしまった。会社によっては半ば官僚ともいえる社員は初めて知る弥太郎像に驚きを隠せずNHKに苦情をいったが、「その内、番組内で偉くなるから待ってほしい」と回答されたそうである。



また長崎龍馬会の会員がハッピーを着て高知市内を歩いていると「弥太郎さんは長崎にやったのだから、よろしくね」と云われるとか。

意味不明だったが「弥太郎は高知出身だが長崎で水を得た魚になり、その後大阪、東京へと転身するにつれ鯨のようになってしまい、高知との縁が薄くなった」とのことらしい。

弥太郎は安芸井ノ口村で地下浪人（じげろうにん）の家に生まれた。地下浪人とは食えなくなり武士の身分を売り払い地域に居ついた郷土である。

しかし聡明であり江戸詰め武士の従者となり昌平坂学問所教授安積良斎の塾に入塾する。父親が酒の上のことで投獄されたため帰藩した。役人を批判し本人も投獄された。同房の商人から商売の基本知識を学んだと云われる。

出獄後は蟄居中の吉田東洋の塾に入塾したことが好機となり土佐藩下級役人となる。安政6年（1859年）弥太郎25歳の時、吉田東洋の抜擢で長崎に派遣される。ところが花街に入り浸り藩の金を使い込んでしまった。無断で帰藩し役人を辞めさせられた。

故郷で過ごすが慶応3年（1867年）ひょんなことから福岡孝弟と吉田東洋の甥の後藤象二郎より再度の長崎行きを要請される。


長崎で設立した開成館長崎出張所（土佐商会）の責任者兼会計係となった。土佐藩は船舶や武器をやたらに購入するが売るべきものがあまりなく借金がたまる。何とか言い訳をしつつ相手を接待攻勢した。

同時に亀山社中から改組した土佐海援隊の面倒を見ることとなった。海援隊の龍馬も金を要求するので弥太郎はそれをコントロールする関係である。黙っていれば龍馬は幾らでも金を要求してくる。

また弥太郎の後ろ盾の後藤象二郎も金食い虫であった。一回目の長崎では弥太郎自身が藩の金を使い込んで遊びまくったので二回目の長崎行きでは目覚めて若干だけだが財布を閉める側に回ったのかもしれない。

慶応3年（1867年）4月海援隊が大洲藩から借りた「いろは丸」が瀬戸内海で紀州藩の明光丸と衝突する。当初鞆の浦で交渉するが続きは長崎で行うこととなった。詳細は略するが紀州藩は賠償金約8万3526両支払うこととなった。その後7万両に減額された。11月7日、長崎で土佐藩に支払われ、その後龍馬が受け取る予定であった。しかし龍馬は11月15日京都で暗殺された。

長崎での噂として、その金を弥太郎が入手し三菱設立の軍資金としたと揶揄されている。弥太郎はすぐ成功したわけではなく苦勞に苦勞を重ねたのだが、最終的に成功者となったのでねたまれて要らぬことを云われることとなった。苦勞は先ず船舶会社である。外国の船会社や日本の政府系船会社とのダンピング合戦が行われ、何回も倒産の危機に瀕している。

（長崎の）土佐商会⇒（大阪の）九十九商会⇒三川商会⇒（東京で）三菱商会⇒三菱蒸気船会社⇒郵便汽船三菱会社⇒日本郵船（社旗は海援隊旗とほぼ同じである)

船舶会社だけでなく長崎湾の小島にある「高島炭坑」が肥前鍋島藩支藩の深堀藩支配からグラバー、それが破産しオランダ人商人へ。その後官営となり、後藤象二郎に払い下げられたが武士の商法でギブアップ。やむなく弥太郎が引き受け、まもなくして三菱のドル箱となった。その後、石炭・金属分野は三菱マテリアルとなった。製造は官営の長崎造船局の払い下げを受け現在は三菱重工。キンビールはグラバーさんから引き継いだ。倉庫会社や商社（三菱商事）、銀行（三菱UFJ銀行）もある。学校も設立した、三菱商船学校から始め、国に渡し東京商船大学となり、現在は東京水産大学と合併し東京海洋大学となっている。

さて龍馬が明治を生きたら弥太郎に勝る世界を相手にした企業グループを創設することが出来たであろうか。

参照：ウキペディア、長崎文献社

赤瀬浩著「弥太郎の長崎日記」



東京駅から皇居までの地面を取得。丸の内は三菱村である。

【編集後記】

皆さま、今年も宜しくお祈りします。心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第35号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局 *****

金沢龍馬会

会 長：蛭子政喜

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muj.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<https://kanazawa-ryomakai.com>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai>

